

2021年11月

中村恵理

ロータリー月例報告 Vol.2

留学先：リバプール熱帯医学校 (LSTM: Liverpool School of Tropical Medicine)



写真1. ヨルダン料理を堪能

朝から夕方まで毎日授業があり、徐々に過酷さが増してきた学生生活。試験や課題の提出に追われ、多くのクラスメイトが毎日深夜2時3時までパソコンに向かう日々を送っております。それゆえ、どんな課題もみんなで乗り越えるという強い結束力を感じています。ランチタイムには留学生が母国の料理をふるまうなど、留学生が9割を占める本校ならではの国際交流が日常的に行われています。



写真2. リバプールクリスマスマーケット

学生数が少ない本校では、先生たちがとても親身になって学生たちの修士論文や進路相談に乗ってくれます。本校は学生よりも先生の数が多い研究機関のため、多彩なキャリアを持っている先生が多く在籍し、将来のキャリアを見据えたテーマの選択を全面的にサポートしてくれます。

『よく学び、よく遊ぶ』。勉強も遊びも全力で楽しめ。そんな素敵な言葉をくれる先生がいて、それを実行するクラスメイトがいるのがリバプール熱帯医学校。過密な授業の合間を縫って、発展途上国における緊急支援や開発支援の在り方について議論したり、週末はみんなでクリスマスマーケットを楽しんでいます。他都市で開催されるクリスマスマーケットにも今後みんなで出かける予定です。



写真3. フラッグの受け渡し

11月上旬には、現地ロータリークラブにて函館市や私が今まで行ってきた活動について発表する機会を頂け、多くの現地ロータリアンの暖かい受け入れを身をもって感じる事ができました。

デイビットさんダフネさん夫妻には継続的に自宅に招待していただき、ランチをごちそうになりながら



写真 4. スコーン作り

テーブルマナーを教えてくださいました。また、伝統的なスコーンの作り方食べ方も教えてくださいました。過密な授業と課題の多さ故、毎日学校と自宅の往復しかできていない私にとって、デイビットさんダフネさん夫妻と過ごす時間は、「イギリスにいるのだ」と再認識させてくれる大切な時間となっています。